会　　議　　録

会　議　の　名　称		令和６年度　第２回小川町地域公共交通活性化協議会
開　催　日　時		令和６年１１月２０日（水） 開会時刻　午前１０時　　閉会時刻　午前１１時１５分
開　催　場　所		小川町民会館（リリックおがわ）会議室１・２
出　席　者	役職名	氏名
	会長	尾崎　晴男
	副会長	小暮　亮治
	委員	石川　勝(代理：田嶋伸弘)
	委員	新井　浩
	委員	小熊　和久
	委員	大山　博
	委員	山岸　実
	委員	田端　健二
	委員	五十嵐 康博
	委員	石塚　守
	委員	近藤　隆俊
	委員	土田　芳夫
	委員	安野　育男
会　議　の　議　題		（１）令和６年度小川町デマンドタクシー事業の中間報告について （２）「２０２４年問題」の影響等、路線バス、タクシー事業者の現状について
会議の公開又は非公開の別		公開
会議の非公開の理由		－
傍　聴　人　の　数		５人
発　言　の　内　容		別紙「発言の要旨」のとおり
会　議　資　料		別紙のとおり
事　務　局		都市政策課 都市政策担当
議事の確定	確定年月日	令和６年　１２月　３日
	記名押印	役職名 会長　　尾崎　晴男　　㊞

発言者	発言の要旨
	（１）令和６年度小川町デマンドタクシー事業の中間報告について
	分科会報告
小暮委員	出席委員は、山岸委員、大山委員、小熊委員代理の山岸委員、田端委員、五十嵐委員、石塚委員、事務局から島田委員、私、小暮の８名。 運行事業者の田端委員から運行形態変更後の利用状況についての報告を聞く。 ・デマンドタクシー利用料金１，５００円になる方々の利用が急激に減った。その方々の生活が心配。 ・運行方法の変更により収入が減少。会社として大きな影響がある。 ・乗降場所に追加された美容院・理容院は利用者が増えている。 ・スーパーの利用が減った原因としては、荷物のある帰りだけ利用される方が増えたのではないかと感じている。 ・１，５００円の料金帯の方は、往復利用では変更前の３倍掛かるため、負担は大きくなっている。 ・受付時間を朝早める、夕方遅くするという要望は依然として出ている。 ・利用者について、利用割合が半減してしまった地域の要因、５００円・１，０００円の利用料金帯が多くなった要因等についての質問。 ・事務局より、全く利用者については今後注視すべきであり、その理由を把握する必要がある。資料１の割合のデータについても今後変動することが予測されるため、引き続き検証・分析を行っていく方針との回答。 この質疑応答について分科会として同意をした。
五十嵐委員	運行形態の変更から半年という事であるが、キャンセル料金が変更されたことによるトラブル等はなかったのか。また、キャンセル自体もあったのかどうかお聞きしたい。デマンドタクシーの料金改定により財政負担が軽減され持続可能性が高まった点は評価するが、中心部より遠い地域での利用が減少しているとの報告もあり、この地域間格差を是正することが重要であると考える。例えば、「デマンドタクシー乗合いの手引き」のような簡単なガイドラインを作成し、利用者が減少している地域に出前講座や住民説明会を実施する事は可能なのか。地域住民の関心を引き、参加を促すための効果的な推進策についても検討いただけると幸いである。
事務局	キャンセルについては、月に１件程度ある。特に大きなトラブル等は改正後発生していない。

発言者	発言の要旨
田端委員	キャンセルについては、月に１～２回程度ある。理由としては、同じ時間帯にデマンドタクシー利用者と一般の乗客からの電話があり３０分ほど待たせるケースがあるためで、特に通院の場合は診療の予約時間があるため、キャンセルという事で説明をして理解していただいている。先ほどキャンセル料９００円程度と説明があったが、実際は１，０００円という事になっているので、１，０００円で記載していただきたい。キャンセルに伴うトラブルは特にない。説明し納得していただいている状況である。
事務局	資料１の最後のまとめでも、近所の方で誘い合って同乗したり、路線バスや鉄道も併用するなどの工夫した利用方法の周知を図っていくという説明をしている。現在、町ではデマンドタクシーＱ＆Ａを作成し皆様にお配りしている。Ｑ＆Ａの中に、工夫した利用方法について記載したり、個別にガイドライン等を作ったり、工夫した乗り方についての周知を行なっていきたいと思っている。周知の方法については、デマンドタクシー利用者は高齢の方が多いため、町のホームページは勿論だが、各区長さんなどにもお話や意見を聞きながら検討していきたいと思っている。
五十嵐委員	承知した。キャンセル料については利用者からは支払われているという理解で良いのか。
事務局	利用者よりキャンセル料金１，０００円をいただけている。なお、利用者が時間に間に合わなくなるため、後日支払ってもらったケースが１件あった。
五十嵐委員	半年のデータという事であり、今後色々と様子を見ていく必要があると思うが、確実に下里エリアのように減少している地域があるので、何らかの問題等があることは想像できる。そういった地域に出向いて丁寧な説明をしていただけると、持続可能性がさらに高まるのではないかと感じた。
尾崎会長	是非、地元の方々のお声を聞くようなことをして頂いたり、手引きのようなものを作成し広げていただければと思う。今後の利用をモニタリングして注視しながらすすめていければと思う。状況調査をお願いしたい。
	（２）「２０２４年問題」の影響等、路線バス、タクシー事業者の現状について
	分科会報告

発言者	発言の要旨
小暮委員	交通事業者である各委員から各会社の状況について改めてお話を伺った。 ・各社共に運転手不足が大変深刻になっている。企業説明会やバス運転体験会など開催しても採用には結びついていない。 ・小川町のバスの危機的状況を、広報などを活用して住民にも共有を促進し、また、一部地域で行ったバスに関するアンケートも町にも共有したい。 ・分科会としてこのような厳しい現状について、事務局に対しては早めの支援を依頼し、自衛隊や消防との連携を強化や長期を見据えた国庫補助の前向きな活用の提案をする。
五十嵐委員	現在、公共交通における運転手不足が深刻化しており、特に町の公共交通を担う企業において、人材確保が困難な状況であるという事が明確になった。また２０２４年問題が影響して、これらの課題はさらに複雑化していると認識している。このような状況に対処するためには、短期的な対応に留まらず長期的な視点に立った施策を講じる必要があると思う。例えば、自動運転の導入やデマンドタクシーの配車システムの改善、補助金等を受けるには何が必要なのかなど、他の自治体の事例を参考にしながら速やかに検討を進めることが求められる。しかし、これらの施策には準備や導入に時間がかかるため、段階的に実施することが不可欠である。このような新しいシステムや技術などを導入するための調査や検討を進めていくことは可能なのか。
事務局	長期的に見て、小川町の公共交通網をいかに維持し、どのようにしていくのかという事を考えていく事が一番大切であると認識している。各路線バス事業者に対しては、様々な形で町から補助金等で支援しているので、その取組を継続してやっていく。運転手不足については、説明でもあったように大変な状況であることは把握しており、協議会としてどのように支援していけるのか、皆さんの意見を伺いながら進めていきたいと考えている。新たなシステムについては、説明の中でいくつか事例を紹介したが、まずは小川町にとってどのような手段が適しているのかを他都市の事例を参考にしながら研究し、協議会で皆さんの意見を伺いながら話し合っていきたいと考えている。
五十嵐委員	小川町にどのような事例が参考になるのかという所は、しっかり見据えていく必要があると思う。地域公共交通における運転手不足等は全国的な問題だと思う。国庫補助は類似事例が増えると採択されず、実施できなかったというニュースも見かけているため、タイミング等もしっかり見計らい、受けられる時に受けていくことは重要だと感じている。簡単な問題ではないと十分承知はしているが、引き続き研究の方よろしくお願いしたい。

発言者	発言の要旨
尾崎会長	まずは状況を知ってもらうことが重要であり、町民の皆さんが深刻な状況を知らない可能性もある。この状況をお伝えしてご意見頂戴することを進めていかなければならない。事業者の状況、利用される方の状況を注視し、耳を傾けて、皆様方に周知することが大切である。２０２４年問題は様々な業種であるが、今話している事業者に関しては非常に難しい境遇にあるため、協議会や町としてどのような役割を果たせるのか引き続きご検討いただきたい。
事務局	資料２の中で、各社が会社説明会などを実施しても、中々人も集まらないという説明をした。中にはＮＡＣＫ５の広告なども考えている会社もあると聞いている。協議会にも予算が割り振られているので、例えば広告料などに関する所で協議会として何かの支援ができないかと考えている。事務局でどのような所に支援をしたら良いのかの案をつくり、この協議会で皆様に協議していただいたうえで、それを運転手確保についての施策として考えていきたいと思っている。
尾崎会長	その中から効果的なものを生み出し、大きな額ではないものの支出していくようなことを検討するということである。その際には、皆様方には細かい数字を示すのか？
事務局	予算案という事で毎年示しているような形で、予算の規模や内容を示させていただき協議していただければと考えている。今のところ来年度の予算で考えている。
尾崎会長	来年度という事になるが、これは是非効果的なものを考えていただきたい。次年度の予算に盛り込んでいくという事は非常に意義深い事である。
小熊委員	今、話に出ている運転手不足ついてお話しする。資料２にある運行状況で東松山線が２ダイヤ減便して、その減便を川越観光が運行と記載されている。東松山線は収入がとても良い路線で、朝日グループとしても収入のこともあり、廃線ではなく足りない部分を川越観光に肩代わりしてもらい共同運行という形をとって、グループ全体の収益を確保する方法をとっている。その背景には、もちろん運転手不足があり、どうしても減便という形を取らざるを得ない事情があった。また、年間休日７９日とも記載されているが、現在はこれを見ただけで、「これしか年間休日がないのでは入れない。」と応募してくる人がいない。そのため今年度中に年間休日を１０５日になんとか持っていきたいと思っている。しかし、概算ではあるが、持ち出しだけでもが３，０００万円は超えるのではないかと出ている。運転手の休日を増やせば、当然休日出勤する者が増え、それはすべて割増で清算することになる。かなりの費用負担になるが、それをやらないと運転手が集まらず路線廃止という形になってしまう。そうならないためにはやらざるを得ないと考えている。運転士が―１０人と記載されているが、これ

発言者	発言の要旨
	は現在、朝日自動車から応援を２人借りて、更に川越観光に２ダイヤを移したうえで、まだー１０人という現実である。このような現実を見て、小川町の方でも広報誌に募集広告を載せてもらったり、公共施設にも募集ポスターを貼ってもらったりしているが、思うようには人が集まらない。現在、問い合わせの段階ではあるが、ＮＡＣＫ５のＣＭは、１回２０秒、１２回で５０万円の費用がかかるそうである。週３回流せば１ヶ月で５０万円という事になってしまう。町の広報などを見る方は高齢者が多く、６０歳過ぎ位の人は余り見ないのではないかと思っている。ＮＡＣＫ５であれば、運転をしている人が聞くので集まるのではないかと思っている。年間休日を増やす取組と同時にこういったＣＭを流し、募集をかけて人材確保をしていこうと考えている。小川町～熊谷路線については、本当に少ない本数にも関わらず、補助金を出していただき、大変感謝している。感謝はしているが今の状況でいくと先々本当にやっていけない時が来ると思っている。これは事業者だけでどうにかなるものでもないと思う。小川町だけではない、熊谷市内でも既にこの３～４年の間に３路線ほど廃止してきた。今、バス事業者は、赤字・運転手不足の問題を抱えており、その状況の中で自治体からの支援がなければ辞めざるを得ない状態になってしまっている。一般の町民のみなさんは、バスが走り電車もあることが普通だと思っているかもしれないが、それはもう大きな間違いで、いつなくなってしまってもおかしくないというのが現状である。タクシーもドライバーはみんな高齢者であり、デマンドタクシーもいつまでもつのだろうと感じている。本当に深刻な問題である。小川町の場合は、本当に真剣に取り組まれていて、一生懸命にやっていただけているという事が本当に分かる。小川町に来る前は様々な都市で委員をしたが、自治体によって温度差がすごくあると感じる。今ある事業者の現状をこういった席で伝えさせていただき、更に町民の皆さんにも伝えていただきたい。先々の方法は色々あると思うが、まずは運転手確保について、どのような事をやっていただけるのか、やらなくてはいけないのか考えていただけるとありがたい。
尾崎会長	先ほど事務局より提案いただいた話については進めるという事でよろしいか。深刻な事態であるという事をこの協議会の方々は認識したと思うが、これは町全体にもお知らせしないといけない。周知と運転手の募集方法について進めていけるようにご検討いただければと思う。協議会としてできる限りのことをしたいと思っている。是非、それぞれお近くの方々にも地元でお話いただき、認識いただくような形で進めていければと思う。本日の議事２件、これにて終了としたい。色々とご意見をいただいて進めることができたことにお礼を申し上げる。本日の資料と議事録は公開させていただきますので、よろしくお願いしたい。

発言者	発言の要旨
	（３）その他
山岸委員	弊社では、現在小川町から東秩父までの路線運行をお隣のときがわ町の営業所から出入庫しているが、この度１２月の中旬に、現在の滝川営業所、寄居営業所の２つの営業所を統合し、小川町の腰越地区の方で新たな営業所を新設させていただくことになった。それについては、事業拡大という面もあるが、統合することにより人員部分での効率化も図っていく。一生懸命、頑張ってまいりますので、引き続きご支援よろしくお願いしたい。
事務局	小川町来年、令和７年２月に７０周年の節目を迎える。配布した記念誌を作成したので、お持ち帰りいただきご覧いただければ幸いである。 以上をもちまして、本日の協議会を終了とさせていただく。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。本日はこれにて散会とさせていただく。